子供の未来を真剣に考えている
保護者の皆さん

かわいい子には スカウト・キャンプを！

ご存知ですか？

子供の将来の課題について
ボーイスカウトの活動について

―ちかい―

私は、名誉にかけて、
次の三条の実行をちかいます。

一．神（仏）と国とに誠を尽くし
おきてを守ります

一．いつも、他の人々を
たすけます

一．からだを強くし、心を
すこやかに、徳を養います

―おきて―

1. スカウトは誠実である
2. スカウトは友情にあつい
3. スカウトは礼儀正しい
4. スカウトは親切である
5. スカウトは快活である
6. スカウトは質素である
7. スカウトは勇敢である
8. スカウトは感謝の心をもつ

Q　いったい、どんな風に
大学受験が変わるのでしょうか？

2020年、センター試験が廃止されます。
新しい２つの共通試験が生まれます。
各大学の試験も面接重視に変わります。

Q　人工知能（AI）は、私たちの生活を
どのように変えるのでしょうか？

人工知能やIOT、IOE、ロボットは
どう進化するのか
15 年後の暮らしを私達は
想像することが出来ますか？

Q　東京直下・南海トラフ地震・異常気象による災害は
いつどこで起きるのでしょうか？

現在の科学ではまだ正確な予知ができません。
自分の身は自分で守らなければなりません。

「かわいい子にはスカウト・キャンプを」

目　次

はじめに……1
三つの「そなえよつねに」将来の三つの課題……2
・教育改革について……2
・AI（人工知能）に伴う変化……7
・災害に対する備えについて……8
ボーイスカウトの活動について……9
三つの課題とスカウト活動……13
まとめとして……17

はじめに

保護者の皆さんはボーイスカウトをご存知でしょうか。どのような活動をしているか見たことがありますか。興味をもったことはなかったでしょうか。自分の子供には関係ないと思われたかもしれません。子供さんのためにこの機会に是非この冊子を読んでみてください。

東日本大震災の時、釜石では「釜石の奇跡」として学校管理下では小中学生の死者がでませんでした。これは発生するかもしれない地震や津波に対して、防災教育として避難訓練が行われていたからです。事前に予知できることに対して、対策を取ることの大切さを、学校教育の場で実証した例となりました。

予知できることにいち早く取り組むこと、教育、学習が将来に対する備えであり、私達大人が子供にしてやれる最大の贈り物ではないでしょうか。

ボーイスカウトのモットーは「そなえよつねに」です。

この冊子では、三つの「そなえよつねに」についてお話し、将来子供たちが体験するであろう事（すでに始まっている事）を検証し、それに対してスカウト活動を通じて将来の課題に備えることができればと、願いを込めて作りました。

三つの「そなえよつねに」 将来の三つの課題

現在の子供達を取りまく将来に亘り、判っている課題について大きく分けて三つについて考えてみたいと思います。

一つは「２０２０年の大学入試改革に伴う教育改革」です。二つ目は「ＡＩを始めとする第４次産業革命」です。三つ目は東日本大震災、熊本地震、そして予測されている「南海トラフ地震等の災害、そして温暖化による異常気象」による災害です。

これら三つの課題は現在進行形でもう始まっています。

教育改革について

まず一つ目の教育改革の内容について見てみましょう。

現在２０２０年の大学入試改革を機に教育界も大きな教育改革の波がうねり始めています。産業界、教育界はグローバル化に対応するために大きく舵を切り始めました。

なぜグローバル化が大学入試に関係するのでしょうか。第一に日本の大学は世界のベスト１００に東大と京大の２校しか入っておらず、文科省は10校を目標に目指すことが決まっています。これは産

業界のグローバル化に伴いＡＩの開発や新たな製品開発に必要な人材の確保が必要になるためです。

そのために導入したのが「国際バカロレア International Baccalaureate 」（ＩＢ）と言う教育プログラムです。これを推進するために教育現場では、すでにアクティブ・ラーニングと言う教育法が導入され始めています。今まで板書により先生が教える、「覚える教育」から生徒同士がお互いに考え、教えあう「考える教育」が始まっています。

（Ｙｏｕ Ｔｕｂｅ『教え合い』で見ることができます。）

大学入試も決まった答えのない問題が出題され、感性と理論的に考えをまとめる能力が問われることになります。

その対策として導入されたのが国際バカロレアで、内容は「グローバル化」と「知識基盤社会」に備えるために必要な

（１）Thinking Skill　「考える力」
（２）Social Skill　「社会性」
（３）Communication Skill　「コミュニケーション力」
（４）Self-management Skill　「自己管理力」

小中高で討論型授業

英語 小5から教科

次期指導要領

中教審が審議まとめ

読売新聞 2016 年８月２日付

（5）Research Skill　　「調べる力」

の五つの力を身につけるプログラムです。

そして、これらのスキルだけを育てるのではなく、それぞれの力がどのような態度や姿勢で発揮されるかがきちんと考えられていなければ、どんなに力を身につけていても意味はなく「人間の幸せに寄与しようとする態度や姿勢」が不可欠だとしています。

そのため次の十二の「態度」が常に正しく選択されることが求められています。

① 感謝……世界とそこに住む人々の素晴らしさに感謝
② 責任……学びに自律心と責任感を持って真剣に取り組む
③ 自信……学習者としての自分の脳力を信じ、難しいことに挑戦する勇気を持ち、学んだことを活用して適切な判断と選択を行う
④ 協調……協力し、協働し、状況に応じてリーダーやメンバーの役割を担う
⑤ 創造性……問題や葛藤に対し、創造的に創意工夫をする
⑥ 好奇心……学びそのものや、世界、人々、文化に対して好奇心を持つ
⑦ 共感……自分を他の人の状況においてみることにより、人がなぜそのような感情を持つに至ったのかを理解し、他者の物の見方に心を開き、振り返りを行う
⑧ 熱意……学ぶことを楽しみ、努力して取り組む
⑨ 自主性……自分で考え、行動する。きちんとした根拠に基づいて自分で判断し、その判断の正しさを説明できる。

⑩ 誠実……正直であること。深い思慮にもとづく公正感を示す
⑪ 尊重……自分、他の人、世界を尊重する
⑫ 寛容……世の中の違いや多様性に対して気を付けて接し、他の人が必要とすることに応える

以上「五つの力」と「基盤となる十二の態度」が国際バカロレアプログラムの概要です。

学校でも教科を教えるだけでなく、人間としての脳力や態度を重視し「考える教育」の取り組みが始まりました。それがアクティブ・ラーニングです。（「アクティブ・ラーニングとしての国際バカロレア」より）

これらの取り組みをするのは、大学入試問題が答えのない問題が出されるためです。それではどんな問題が出るのでしょうか。

①「知識は人間だけによって創られていくのであろうか。」
　　２０１５年度　慶応義塾大学　経済学部小論文で出された問題

②「永遠に生きられれば人は幸せだろうか。」
　　２０１４年度　早稲田大学の政治経済学部の英語の問題の一部　英文出題

偏差値重視の入試制度から、多様な答えがある問題に取り組まなくてはならなくなりつつあります。

大学が変わるのは産業界の就職制度変更を前提にした取り組みでもあります。

それは終身雇用制度と年功序列が終わるからだと言われています。

20年以上前の１９９５年に経団連が出した【新時代の「日本的経営」＝挑戦すべき方向とその具体策】は次の表のようになっています。

アメリカのような「ジョブ型」の雇用に代わる可能性が高いのです。

２０２０年の大学入試改革に合わせて、就職や雇用制度が徐々に変わっていく可能性があるのです。

大学入試センター試験と新テストの比較

年度	2019年度まで	20年度～23年度	24年度以降
名称	大学入試 センター試験	大学入学希望者学力評価テスト（仮称）	
対象 （現在の学年）	中３まで	中２～小５	小４以下
出題方式	マークシートの 選択式	マークシートの選択式＋ 短文記述式（国語、数学）	コンピューターを使った 選択式や記述式を検討
英語の 出題	マークシート式 ＋リスニング	「書く」「話す」テストで外 部の民間試験活用を検討	将来的に外部の民間試験 に移行することを検討
実施回数・ 時期	年１回・１月	「選択式」と「記述式」を同時に実施し、 記述式の採点を大学が担う案を検討	
		年１回	年複数回実施の 可能性を検討
成績	１点刻み	記述式は段階別評価の方向	

文部科学省の資料などをもとに作成

グループ別にみた処遇の主な内容

	長期蓄積能力活用型 グループ	高度専門能力活用型 グループ	雇用柔軟型 グループ
雇用形態	期間の定めのない 雇用契約	有期雇用契約	有期雇用契約
対　　象	管理職・総合職・ 技能部門の基幹職	専門部門 （企画、営業、研究開発等）	一般職 技能部門　販売部門
賃　　金	月給制か年俸制 職能給　昇給制度	年俸制 業績給　昇給なし	時間給制 職務給　昇給なし
賞　　与	定率＋業績スライド	成果配分	定率
退職金年金	ポイント制	なし	なし
昇進昇格	役職昇進 職務資格　昇進	業績評価	上位職務への転換
福祉施策	生涯総合施策	生活援護施策	生活援護施策

出典：「新時代の『日本的経営』」（日本経営者団体連盟、1995年）

ＡＩ（人工知能）に伴う変化

二つ目はＡＩ（人工知能）を始めとする第四次産業革命です。

コンピューターと囲碁の試合が話題になりました。囲碁のチャンピオンとコンピューターが対戦して４対１でコンピューターが勝利しました。

これは「ディープラーリング」と言う「パターン認識」能力を飛躍的に高めることができた結果だと言われています。

ドイツのインダスロリ４・０を受け日本でも２０１５年を「第４次産業革命」元年としての取り組みが始まっています。

自動運転できる自動車の開発は皆さんもニュースで見ていると思います。家電とインターネットをつないだ商品の開発や、建設機械とインターネットの連携等ＩＯＴとして製品化され始めています。私たちが知らないうちにどんどん開発が進んでいます。

こうした進化によって、人工知能は人間の仕事を次々と奪い取っていくのではないかと心配する声が日増しに強くなっています。

２０１４年英国デロイト社は、英国の仕事のうち35％が、今後20年間でロボットに置き換えられる可能性があると報告を発表しています。さらにオックスフォード大学の研究報告では今後10～20年ほどでＩＴ化の影響で７０２の職業のうち約半分が失われる可能性があると述べています。又現在人気

の職業が一番危ないとも言われています。
現在小学生の子供達はこのような状態の時に就職することになるのです。もちろん新しい職業ができていることと思います。それほど心配する必要が無いのかもしれません。
しかし、パソコンに出来ない創造すること、思いやること、手作業で作ること等人間本来の特色を鍛え育てることが重要になってくると考えます。
ＡＩについては専門的な項目が多すぎて私の知識では、到底追いつけませんが、そのような流れにあることだけをお伝えしたいと思います。

災害に対する備えについて

三つ目は災害に対する備えです。
私達は東日本大震災を経験しました。一瞬にして多くの人命と財産を奪い取っていった津波の恐ろしさは筆舌に尽くしがたいものがあります。
最近では熊本地震で多くの人命と財産が失われました。異常気象による崖崩れや、河川の氾濫で堤防が決壊し多くの犠牲が出ています。
これらの出来事はほかの人にとっては他人事です。いくらニュースで見ても自分事としてとらえることができません。これは釜石でも被災した人、被災しなかった人でも同じようなとらえ方になっています。これらの災害を自分事としてどうとらえるかが大切です。
それには小さい時から自然に親しみ、自然の中で感性を磨く必要があります。
私は地震の揺れが来る前に山が鳴るのが聞こえます。揺れる前に地震が来る音が聞こえます。都会では無理でしょうが、自然の多いところで暮らしていると雑音が少なく聞こえます。
便利な生活に慣れ人間も動物であることを忘れています。なにが危険なのか体験が少なくなっています。野外生活の体験を通じて危険予知能力を高める必要があると思います。
又、震災後安否確認をしているときにスカウトのお母さんから「息子がガスも電気も止まっているのにご飯を炊いてくれました。スカウトに入れていてよかったです。」と教えてくれました。どのような状況でも、あるもので工夫し、考えて対応することは、日ごろの経験と訓練が必要です。
災害はいつどこで、どのように我が身に降りかかるか分かりません。自分の身は自分で守り、更に余力を持って他の人を援助する心がけが大切です。
南海トラフ地震と津波が想定されています。異常気象による災害はどこで起きるかわかりません。子供達だけではなく大人も含めて、常日頃からの心構えと備えが大切です。

ボーイスカウトの活動について

以上三つの想定される課題を書いてきましたが、それではボーイスカウト活動がどのように課題に

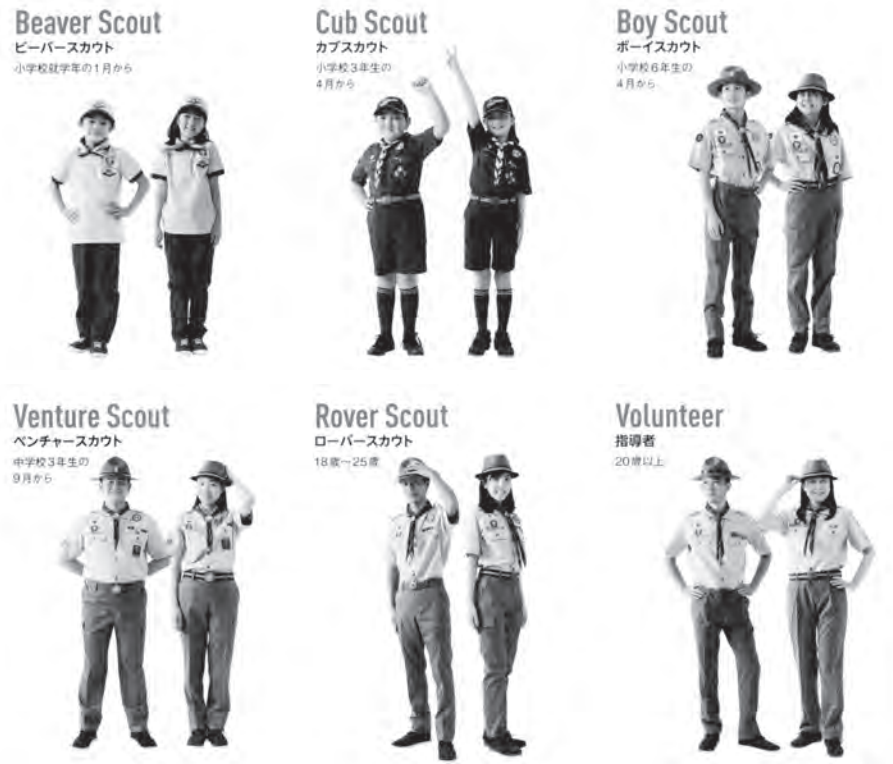
対処できるのでしょうか。

最初にボーイスカウトと言っていますが学年による名称の違いがあります。

小学1、2年生をビーバースカウト、3年から5年生をカブスカウト、6年から中学3年までがボーイスカウトです。高校生はベンチャースカウトとなり大学生はローバースカウトと呼びます。スカウト活動は小学1年生から大学生まで年齢に合った活動をそれぞれしますが、同じ組織の中で年齢の違う子供たちが交流しながら活動します。

団行事の時は1年生から大学生それに指導者である大人まで一緒に活動しています。

学年やクラス内だけの横の繋がりではなく、縦の繋がりを持ちながらコミュ



ニケーションを図っています。

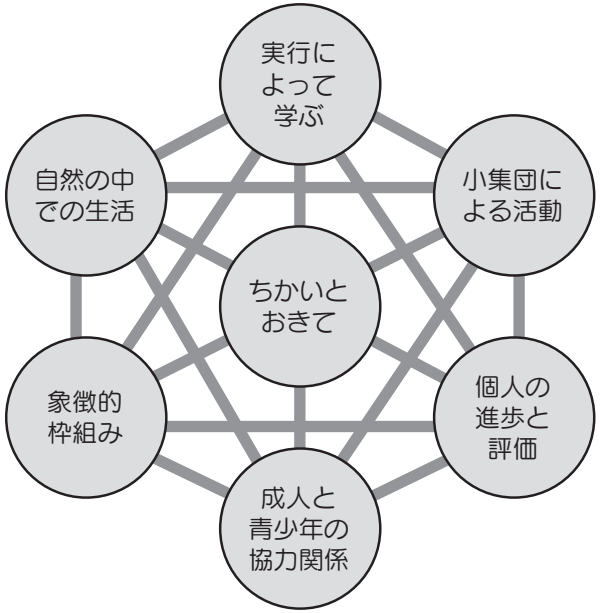
次にスカウト活動の目的を見てみましょう。日本連盟規約の目的には、「本連盟は、ボーイスカウトの組織を通じ、青少年がその自発活動により、自らの健康を築き、社会に奉仕できる能力と人生に役立つ技能を体得し、かつ誠実、勇気、自信及び国際愛と人道主義を把握し、実践できるよう教育することをもって教育の目的とする」です。

最初に出てきた「国際バカロレア」の内容と似ていたと思いませんか。

この目的を達成するために、スカウト活動であるための7つの要素があります。それを一つずつ説明します。

1「ちかい」「おきて」の実践

ビーバースカウトは「決まり」、カブスカウトは「さだめ」ボーイスカウトになってはじめて「ちかい」を立て「おきて」を守る活動をします。活動の中で約束を守ること、仲間との友情の大切さ、故郷



や親への感謝、勇気を持ってチャレンジすること等を体得します。

2　班（組）で活動します。

班の中で役割を決め、仕事の分担をしながら、先輩が後輩に指導し教え合います。まさにＩＢのアクティブ・ラーニングの実践を行ってきました。

班内の問題解決は、班長を中心に自分達で考える活動です。リーダーシップやコミュニケーション能力、自分の役割を果たすことを実践します。

3　個人の進歩と評価　進級制度・技能章等のチャレンジ章が多くあります。

基本的に絶対評価で行い、個々にチャレンジし進級や技能章を取得します。目標を立ててチャレンジすること、いろいろな章を取りながら達成感と自信を獲得していきます。

4　野外活動を重点にしています。

ハイキング、キャンプを通じ自然の素晴らしさと怖さを体得します。自然の中で活動することで、感性が磨かれます。自然の中の不便な生活の中で創意工夫をすることで考えるキャンプができます。

5　行うことにより学びます。

自分で体験し、やって見て覚えます。刃物の使い方、ロープワーク等キャンプに必要なスキルを体験して覚えます。その事がひいては災害や仕事の場面で役立ってきます。

6　シンボルの活用

ボーイスカウトは、同じサインやマークを使い世界１６１の国と地域が参加し、４，０００万人が活動しています。一番グローバル化された組織と言えます。

海外派遣のチャンスも多くあり、外国のスカウトとの交流も盛んに行っています。

7　成人の支援

この活動は大人のボランティアによって支えられています。年令性別を問わず誰でも参加することができます。

以上七つの項目を兼ね備えていればボーイスカウト活動ができます。

具体的には野外活動に必要なスキルを習得しながら活動が進められますが、それぞれの年齢に合った活動を展開しています。

又、冬はスキー、夏は海のスポーツ等ハイキングやキャンプ以外にもスポーツを取り入れた活動を行っているのが、ボーイスカウトです。

それではこれらの活動がどのように前段の三つの課題に対処しているかを検証しましょう。

三つの課題とスカウト活動

第１の課題、２０２０年大学入試改革についてですが、学習内容（知の理論ＴＯＫ）、アクティブ・

ラーニングは学校にお任せしますが、お気付の通りＩＢの12の態度はまさにボーイスカウトのおきての実践に繋がります。普段からこれらの態度の実践をしておくことが、学校教育を受けるうえで有効になると思います。これからは覚える勉強から考える勉強に変わっていくでしょう。スカウトのキャンプは、テントに寝るだけでなく、いかに安全に、快適に生活ができるかを考えるキャンプなのです。自分が修得したキャンプスキルをどこでどのように使うか、自然の変化の中で考え実践する活動なのです。

学校でアクティブ・ラーニングが始まっても抵抗なく学習することができると思います。

又、就職活動で一番重要視されている項目は何かお判りでしょうか。一番はコミュニケーション能力です。「日経連『新卒者採用（２０１５年４月入社対象）アンケート結果』」

２番目が主体性、三番目がチャレンジ精神、協調性、誠実性、責任感と続きます。

学校生活の横の繋がりではなく、小学１年生から私達大人までいろいろな年代の関わり合いがコミュニケーション能力を育てます。いろいろな体験や、アクティブな活動にチャレンジすることで主体性、チャレンジ精神が、ゲーム感覚で遊びながら身についていくのがスカウト活動です。前段で示した「非認知能力」の育成に大きな効果が期待されます。

第２の課題ＡＩ（人工知脳能）についてですが、現在どこの国においても、莫大な予算を掛けて研究がすすめられています。どんどん商品化されてくると思います。

詳しいことは専門外ですのでここで人工知能に対比して、人間の脳力「８つのインテリジェンス」

について見てみましょう。

ハーバード大学ハワード・ガードナー博士の研究により人間には７種類もしくは８種類の脳力がある多面的脳力理論が出されました。

それは　①言語脳力　②空間認識脳力　③音感脳力　④身体感覚脳力　⑤論理数学脳力　⑥人間関係形成脳力　⑦自己観察脳力　の七つです。最近は　⑧博物学的脳力　が加えられ８つの脳力があるとされています。人工知能は人間がプログラムしたものですが、８つの脳力は持って生まれたものです。自分の脳力を知ることは、将来、職業を選択する場合、自分の脳力の秀でた部分を把握し伸ばして行くうえで大切なことです。

誰もが持っている脳力ですが、人それぞれ生まれながらの得意分野や、訓練によりそれぞれの違いが出てきます。それが個性となります。

東北大学加齢医学研究所 瀧 靖之教授の研究では ③視覚や聴覚は０歳から　④の身体能力は３～５歳 ①言語は８歳～10歳　⑥のコミュニケーションは10歳～思春期と脳の成長過程に合わせて発達してくるとしています。年齢に合った活動や訓練をすることが能力開発に有効なことが判ります。昔から習い事を始める年齢を「３歳６歳12歳」と言われてきたことと符合します。それぞれの年齢に合った活動は子供たちの脳力開発に効果が期待できます。

スカウト活動は野外スキルを学ぶと共に多くの技能章があります。自分の得意な事、興味をもった事にいろいろチャレンジし、自分の脳力で何が得意なのかを探す活動は将来の大学進学の進路決定や、ひいては就職に役立つものと思います。

人工知能では出来ないコミュニケーション脳力、内省脳力、イメージ脳力…等を自分の脳力を自覚したうえで、育て脳力アップしていくことが、人工知能の世の中に対応する準備ではないかと考えます。人工知能には「仁」と言う概念はないそうです。ロボットは他の人をおもんばかることはできません。まさに仁義なき戦いになる恐れがあります。自分の脳力を自覚したうえで、思いやりや、感謝の心、友を思う心が大切になってくると思います。

スカウト活動を通じて脳力開発と同時に、自然の中の活動を通じて感性豊かな心を育てたいと思います。

最後に第3の課題、災害に対する備えですが、これは心構えの問題と避難する決断をすること、そして備えの三つの準備が必要だと思います。

一つは災害が来るかもしれないという心構えです。今三陸では5年前の経験がまだ脳裏にありますから、地震に対しても敏感になっていますが、ほかの土地に行った場合、今の感覚でいられるでしょうか。大雨や竜巻等に対しても、もしものことを想定し、自分の居場所の地理的状況の把握ができているか、日ごろから訓練しておく必要があります。

又、避難するかどうかの状況判断は難しいところです。判断を間違えれば命に関わります。常日頃自分で考え判断することの訓練が大切です。

最後にサバイバル的なスキルの習得や臨機応変の対処力を普段の訓練で身につけておく必要があります。キャンプスキルをいかに応用できるか経験を重ねるしかありません。

まず自分で自分の身を守ったうえで、他の人の支援ができるようにスカウト活動を通じて習得して欲しいと思います。

災害は忘れたころにやってきます。私達は自然の中で暮らしています。いくら科学が進歩しても自然をコントロールすることはできません。私達が自然に対応するしかないのです。

「そなえよつねに」を心がけて防災に努めましょう。

まとめとして

これから子供達を取り巻く環境の変化について、ボーイスカウトの活動の概要について書いてみましたがご理解いただけましたでしょうか。

未来の事は推測でしかありませんが、教育改革やＡＩの発達による社会の変化はもう始まっています。

日本では非認知能力についての評価がまだ低い状態と言われています。欧米諸国では科学的なデーターによる研究が進み認識も高まっております。教育の課程や就職してからも一生この能力は必要です。特に「自制心」や「やり抜く力」「コミュニケーション力」は人生に大きくかかわってきます。

人間は8つの脳力を持って生まれてきますが、一人一人八角形の形には違いがあります。低学年のうちは特に色々な事を経験させ好きな事、やりたいことを見つける期間だと思います。

未来がどんな状況になっても、自分の能力、技術により自分の人生を切り開けるようになってほしいと願っています。

未来を担う子供たちが、夢と希望に満ちた人生を送れるように、気のついた大人が行動を起こす時ではないでしょうか。

保護者の皆さん、「かわいい子にはスカウトキャンプを」是非スカウト活動をさせてみませんか。仲間が増えると子供達に色々な事を経験させることができます。子供たちが一人一人違う能力を発揮し、「非認知能力」を鍛え、明るい未来を創造できるように一緒に活動しましょう。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

平成28年12月10日

ボーイスカウト釜石第2団

団委員長　奥　田　耕　一

【参考文献】

「２０２０年激変する大学受験」　西川　純　著
「２０２０年の大学入試問題」　石川一郎　著
「アクティブ・ラーニングとしての国際バカロレア」　大迫　弘和　著
「人工知能は人間を超えるか」　松尾　豊　著
「ＡＩの衝撃」人工知能は人類の敵か　小林雅一　著
「人工知能」の今と未来の話　本田幸夫　著
「７つの超脳力」　トーマス・アームストロング　著
「コリン・ローズの加速学習法」　コリン・ローズ　著
「賢い子に育てる究極のコツ」　瀧　靖之　著
「学力」の経済学　中室牧子　著

日本ボーイスカウト
釜石第２団 団委員会

「非認知能力」をご存知ですか？

「認知能力」はIQや試験の点数など
数値で認識できる能力です。
「非認知能力」は下の表をご覧ください。
今、非認知能力への認識が高まっています。

「非認知能力への投資は、子供の成功にとって非常に重要であることが多くの研究で示されています。

……

非認知能力を鍛える手段として、高校生が高齢者にコンピューターの使い方を教えるという社会奉仕活動のように、教室で学んだことを地域社会で問題解決のために生かすような教育やアウトドア活動なども有効であると言われています。」

「学力」の経済学　中室牧子著より

非認知能力とは何か

学術的な呼称	一般的な呼称
自己認識（Self-perceptions）	自分に対する自信がある、やり抜く力がある
意欲（Motivation）	やる気がある、意欲的である
忍耐力（Perseverance）	忍耐強い、粘り強い、根気がある、気概がある
自制心（Self-control）	意志力が強い、精神力が強い、自制心がある
メタ認知ストラテジー（Metacognitive strategies）	理解度を把握する、自分の状況を把握する
社会的適性（Social competencies）	リーダーシップがある、社会性がある
回復力と対処能力（Resilience and coping）	すぐに立ち直る、うまく対応する
創造性（Creativity）	創造性に富む、工夫する
性格的な特性（Big 5）	神経質、外交的、好奇心が強い、協調性がある、誠実

出所：Gutman, L. M., & Schoon, I.(2013). The impact of non-cognitive skills on outcomes for young people. Education Cndowment Foundation をもとに作成